

近隣資産を活かし住民協働のウォークイベントを通じた健康づくりの取組み

高井 逸史¹⁾ 片岡 勇樹²⁾ 山城 雄馬³⁾ 小山 恵理子³⁾
松原 賢典³⁾ 高宮 昭仁⁴⁾ 藤井 大輔⁴⁾ 陶器 俊博⁵⁾

1)大阪経済大学人間科学部 2)株式会社りどけあ 3)シャローム株式会社
4)地域ケアステーション八千代・訪問看護ステーション 5)清恵会三宝病院

キーワード：近隣資産・住民協働・ウォークイベント

【はじめに】

われわれは平成 29 年、地域の歴史や自然など近隣資産を活かし、地域住民と協働したウォーキングイベント実施した。そこで本研究では、参加者のアンケート結果を分析し、神社仏閣や体験コーナーの視点から高齢者にとって望ましいウォーキングイベントのあり方を明らかにすることを目的とした。

【方法】

平成 29 年堺市泉北ニュータウンまちびらき 50 周年事業において、泉北ニュータウン（以下、泉北 NT）全域を図 1 に示した 6 コースに分け、5 月から 12 月の 8 月と 9 月を除く期間に実施した。子どもから高齢者まで、誰もが参加できるように、コースの距離は約 5~7km に設定した。本イベントのねらいは、泉北 NT にある緑地や緑道、神社仏閣など近隣資産を活用したウォーキングを通じ、住民同士のつながりを深め、健康づくりの意識を醸成することであった。また、各コースの近隣資産については、その地域の自治会や歩こう会の住民から情報収集を行った。全コースとも「神社仏閣」に立ち寄りそこで歴史講座

を実施した。さらには歩行器など歩行支援用具の「体験コーナー」も設定した。参加者は終了時アンケートを記入してもらった。アンケート項目は性別、年齢、在住校区、ウォーキング習慣の有無やその時間、神社仏閣のお話や歩いた感想については「大変良かった・良かった・あまり良くなかった・良くなかった」の 4 件法で回答を求めた。「神社仏閣」と「体験コーナー」については、「男/女」と「前期高齢者/後期高齢者」との関連性を調べるため、クロス集計を行い、Spearman の順位相関係数を用いて検討し有意水準は 5% とした。



図 2 「神社仏閣」



図 3 「体験コーナー」

【説明と同意】

アンケート記入に関しては、あらかじめ使用目的を説明し同意を得て記入してもらった。

【結果】

6 コースの参加人数は 38 人~63 人平均は約 52 人であった。その内訳は男性約 42%、女性約 58%であった。各コースの参加者の約 72%がコース付近の校区在住者であった(図 4 参照)。参加者の 76%が 1 日あたり 40 分以上ウォーキングしていた

(図 5 参照)。神社仏閣の感想は約 86%が「大変良かった」または「良かった」という結果であった。一方、体験コーナーでは約 62%が「大変良かった」または「良かった」という結果であった。さらに、神社仏閣と体験コーナーのクロス集計の結果、神社仏閣と「男/女」に有意差がみられた ($p < 0.05$)。体験コーナーにおいては、有意差は確認できなかったが、前期高齢者の方が後期高齢者より「あまり良くなかった・良くなかった」が



図 1 緑道ウォークの 6 コース

多い傾向がみられた。

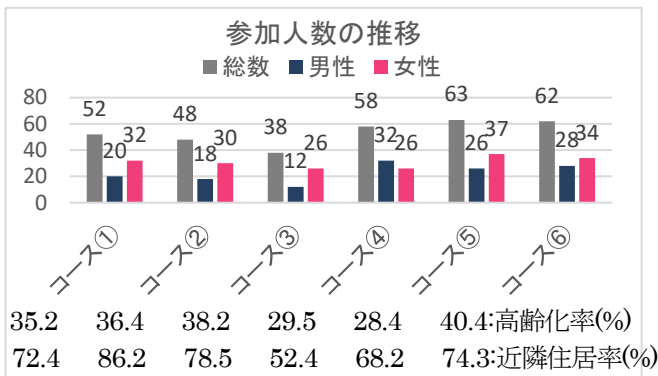


図4 参加人数の推移

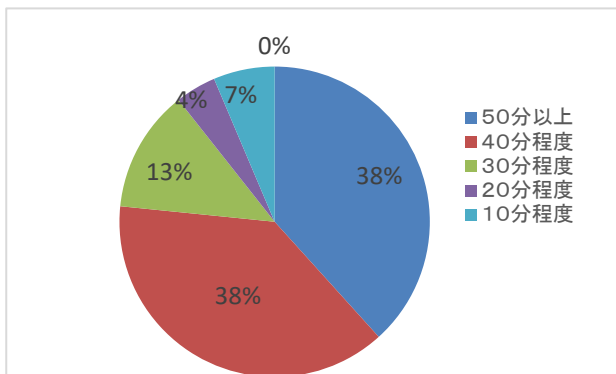


図5 参加者の1日歩行時間

【考察】

われわれは、平成29年に療法士のみならず看護師や薬剤師、管理栄養士など医療従事者が集う法人化の団体を設立した。設立の趣旨は、われわれの専門性を活かしたプロボノ活動を通じ、地域住民のつながりや健康づくりを支援することである。

今回、われわれは地域の歴史や自然など近隣資産を活かし、地域住民と協働したウォーキングイベント実施し、参加者のアンケート結果を分析し、高齢者にとって望ましいウォーキングイベントのあり方を明らかにすることを目的とした。

アンケート結果から、女性の参加者の割合が多かった。これは、コース付近の校区在住者の参加割合が高かったため、近隣の女性同士がグループで参加した結果と考えられる。さらに、各コース周辺の高齢化率との関連性を検討したところ、高齢者率の高い校区ほど女性の割合が多くなる傾向がみられ、高齢化率も性差に影響した可能性が考えられる。男性の割合が女性より多いコースがひとつだけあり、そのコースに全国的に有名な神社が含まれていたことが要因であると考えられる。近年、男性高齢者の閉じこもりが社会問題になっているが、「神社仏閣」など男性高齢者が参加したくなる企画を考案する必要がある。体験コーナーについては、概ね前期高齢者にあまり良くないという感想が多かった。前期高齢者は後期高齢者に比べ、歩行支援用具の必要性をあまり感じておらず、その結果になったと考え

られる。孤立化しやすい男性高齢者を地域の健康づくりに参加させるには、神社仏閣を巡り歴史をテーマとした散策スタイルが望ましいと考える。

今回のウォーキングイベントは堺市泉北ニュータウンまちびらき50周年事業の連携事業の一環と参画した。当日配布したコース地図をはじめ、チラシ、スタッフの交通費など運営費は参加費で賄われた。しかし、参加費300円ではすべての経費を賄うことができず、介護予防のコンテンツをもつカラオケ企業をはじめ、IT企業、介護関連企業などから協力関係をむすび、企業のロゴが入ったタオルやペンなど、参加賞として企業から景品を提供してもらった。

また、企業の協力のみならず、各コース付近の地域住民をはじめ、ウォークイベントを陰で支えていただいた住民リーダー、そして学生ボランティアの参加も忘れてはいけない。行政主体の健康づくりの多くは、行政が担い手となり住民はあくまでも参加者として受け手側となる場合が一般的である。住民が担い手として健康づくりに主体的に参画するには、住民同士の助け合いを意味する「互助」がキーワードとしてよく使われる。たしかに住民主体の「互助」が上手く機能できることが目標だが、何もかも住民に任せてしまうと住民の負担が大きくなり、持続可能な運営がむずかしいと考える。そこでわれわれ専門家の役割は、住民の強みを最大限引き出しサポートするスタンス、「伴走型支援」が必要と考える。そのためには、自治会組織に向向き自治会住民と対話し、住民自身気付いていない強みを顕在化し、その強みを活かせる仕組みを構築することが地域包括ケアの深化に必要と考える。住民任せの互助活動から専門家と住民が共創した新たな互助活動の取組みを創設していきたい。

ウォークイベント開催(平成29年5月～12月)




住民リーダーのみなさん

- ・近隣センターをはじめ、緑道や公園、歴史など、近隣資産を活用した住民リーダーと協働し企画
- ・6コース設定 泉北ニュータウンを中心に南区全域をウォーク
- ・コース近隣の自治会や地域住民の協力なども得られた





地域の協力 住民の協力 学生の協力

平成29年度泉北まちびらき50周年事業連携事業
「緑道ウォーク」で住民の健康と交流づくり

図6 地域、住民そして学生の協力

謝辞

本研究は平成27-29年度文科省科研費基盤研究C「住民主体の互助活動を推進する地域リハビリネットワーク構築に関する研究(課題番号15K00741)」によるものである。